

スプーンが長く伸びるマジックに目を丸くする参加者



### 手で品で地区のみんなを笑顔に 両開地区マジックショーに老若男女集う

有明まほろばセンターで8月22日、マジックショーがありました。地区内の交流を深めようと、両開地区社会福祉協議会など地区の各団体が協力して企画。小学生から高齢者まで約70人が集まりました。マジシャンたちが、注いだ牛乳が消えたり空の袋から物がどんどん出てきたりするマジックを次々と披露。約1時間のステージの間、「え、なんで」という歓声や拍手が沸き起こった他、「何か持ってる」とするどい指摘をする子どもの声も聞かれ、会場は笑いに包まれていました。

ホークスOBからアドバイスを受ける中学生



### 常にフォームを考えて練習すべし ホークスOBが中学生に上達のコツを伝授

県や筑後地区の7市町で構成する筑後七国活性化協議会は8月24日、市民三橋グラウンドで野球教室を開催しました。当日は、柳川市とみやま市の中学校で野球部に所属する53人が参加。福岡ソフトバンクホークスOBの新垣渚さんと日暮矢麻人さん、釜元豪さんが打撃や守備に分かれて指導しました。釜元さんから打撃のときに体を開かないようアドバイスを受けた生徒は「意識しただけで打球の飛び方が全然違った」と手ごたえを感じていました。



身近な話題などお知らせください。情報をお待ちしています。  
【問】企画課広報聴係 (☎ 77・8425)

### 観光大使に黒滝サクさんが就任 海苔と柳川の魅力を全国にPR

8月24日、市出身でモデルの黒滝サクさんが観光大使に就任しました。祖父が海苔生産者の黒滝さんは令和3年、沖端に海苔販売店をオープン。自身が収穫した最上級海苔を使った看板商品「万能sakuサクのり」は市ブランド認定品に認定されています。また、昨年12月には、東京のホテルに出店するなど日本全国で福岡有明のりをPRしています。就任式で黒滝さんは「海苔だけではなく川下りや両開の巨峰、有明海の夕日など柳川の魅力を発信したい」と意気込みを語りました。



【上】観光大使に就任した黒滝サクさん  
【下】東京のホテルに出店し、福岡有明のりをPR



息の合ったプレーを見せるペア



### 一球に心をこめ全カプレー 筑後地区中学親善卓球大会

8月26日と27日、筑後地区中学親善卓球大会が市民体育館でありました。筑後地区の40校、582人が参加。日ごろの練習成果を発揮し、熱戦が繰り広げられました。市内の学校の結果は次のとおりです(敬称略、かつこ内は学校名)。【男子個人戦2年生の部】優勝=伊藤陽斗(蒲池中)【同1年生の部】優勝=大藪煌之介(蒲池中)【女子個人戦2年生の部】準優勝=平河佳穂(大和中)【同1年生の部】準優勝=田尻花梨(大和中)【女子団体戦】準優勝=大和中

市民からの質問に答える金子健次市長



### オスプレイ等の配備計画を説明 全市民を対象にした説明会を再び開催

市と九州防衛局は、2回目となる佐賀空港へのオスプレイ等の配備計画に関する市民説明会を9月3日、市民文化会館で開催しました。多くの人が参加できるように日曜の午後3時から始まった説明会には前回は上回る126人が来場。江原康雄局長をはじめ九州防衛局の担当者も出席し、参加者からの質問に回答しました。説明会は質問が出尽くすまで4時間にわたりました。説明会の資料などは市公式サイトに掲載しているので、ご覧ください。



吹奏楽部の生徒でも笛の音を出すのに大苦戦



### 日本の伝統を次の世代へ 昭代中学校で能体験ワークショップ

子どもたちに日本の伝統芸能に親んでもらおうと9月1日、水都柳川能実行委員会は昭代中学校で能体験ワークショップを開きました。参加した2年生66人は、能が約650年間も日本で受け継がれてきた歴史や使われる楽器の役割などを学習。その後、能舞台を鑑賞し、最後に笛や鼓の音出し、能面を着けての動作を体験しました。特に笛の音出しは難しかったようで、吹奏楽部の生徒でも音が出せず悪戦苦闘。それでも講師の指導で何とか音が出るほどに上達しました。

それぞれの願いを込め地域を練り歩いた



### 豊作と豊漁、家内安全を願って 稲荷町の二宮神社で八朔祭り開催

8月26日と27日、稲荷町の二宮神社で八朔祭りが行われました。同祭りは豊作と豊漁、家内安全などを祈願するものでコロナの影響で4年ぶりの開催となりました。27日は氏子や親子連れなど地域住民約300人が参加。青年がみこしを担ぎ、子どもたちが神社の旗を持って地域内を練り歩き、6カ所の祈禱所で、豊作や豊漁などを祈願しました。参加者は「4年ぶり開催で、地域が元気になりました。昨年は海苔が採れなかったのが今年は豊漁になればいいですね」と願いを語りました。